

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972000285		
法人名	四国部品 株式会社		
事業所名	グループホーム いしんの郷		
所在地	高知県安芸郡田野町1456-45		
自己評価作成日	令和元年11月26日	評価結果 市町村受理日	令和2年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「くつろぎ・やすらぎ・寄り添い」を理念に、利用者優先の穏やかな暮らしの実現と自己決定を尊重する支援を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhou_detail_022_kihon=true&JkyosyoCd=3992000285-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和2年1月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は町の中心部にあり、すぐ近くに消防署、役場、図書館、協力医や商業施設があり、整備された公園もある。利用者にとっては、買い物や通院、図書館に出かけたり、公園でのイベントに歩いて行ける恵まれた環境にある。

事業所は共用空間が広く、杖歩行や車いすの利用者も移動がしやすい。職員は、利用者の趣味や意向に沿った支援を行い、いきいき百歳体操やかみかみ体操など、体を動かすレクリエーションを取り入れて自立支援につなげている。買い物や通院、役場等に来たついでに立ち寄ってくれる友人、知人の面会も多く、馴染みの関係が継続されている。また、敷地内には母体法人の有料老人ホームがあり、共同で防災訓練や災害時の備蓄を行っている。

ボランティアによる生け花教室が毎月開かれ、利用者は花を自由に活けて楽しんでいる。町の文化祭に出展する共同作業の貼り絵にも、皆で談笑しながら和やかに取り組むほか、ソファーに座ってテレビを見たり好きな本を読む利用者もあり、各々が自由でゆったりした時間を過ごしている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: めい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所理念である「くつろぎ やすらぎ 寄り添い」に基づくケアに取り組み、実践している</p>	<p>理念は玄関や共用スペースに掲示して、誰でも見やすくしている。利用者の自立支援を念頭に、介助方法や行事を検討する際には、利用者の思いを汲み、理念に沿った支援ができていないか職員で話し合っ確認し、実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域住民が講師となり、定期的に生け花教室を開催してくれたり、利用者の友人が立ち寄るなどの地域交流を行っている。また、地域行事に参加し、事業所見学も受け入れている。</p>	<p>近くにスーパーマーケットや商店があり、買物時には地域住民と交流している。山菜や利用者が喜ぶ物の差し入れがあり、近隣住民とも日常的につながりがある。町の文化祭に利用者の共同作品を出展し、地域との交流を行っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>利用者への日常支援を基本に、家族等の悩みや困りごとに寄り添い、相談に乗っている。話を聞いてもらうだけでも落ち着くと云ってくれる家族がいる。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業所の現状やサービス提供の内容等の細かい報告を行い、意見交換をして、アドバイスを得ながらサービスの向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議では活発な質疑応答があり、双方向的な会になっており、評価結果や目標達成計画も協議され運営に活かされているが、地域住民の参加が少ない。議事録は家族に送付されている。</p>	<p>運営推進委員の参加では住民代表が少ないため、近隣住民が運営しているなごやかサロン代表者や町内会長、民生委員、老人クラブ、健康づくり組織の代表者等からの参加を期待したい。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>広域連合の地域包括支援センターの相談員と連絡を取りながら、問題解決に対応している。</p>	<p>運営推進会議のほか、日ごろから町の担当職員とは連絡をとり、情報交換や相談を行う関係にある。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は身体拘束の弊害を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。特にスピーチロックについて日ごろのケアを振り返って検討するなど、職員への理解浸透を図っている。</p>	<p>職場内で身体拘束をしないケアの勉強会を継続的に行っている。玄関は施錠せず、利用者が不穏になるときは職員同士で気を付け合い、散歩や話しを聞くなどして、気持ちを和ませている。職員は、身体拘束をしないケアを心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待報道があるたびに、職員会等で話し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を利用する利用者があるので、職員もある程度は制度を理解しており、月1回後見人に利用者の近況報告をして、信頼関係を築いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に内容や重要事項の説明を行い、理解と同意を得るようにしている。契約内容に変更が生じた場合には、事前に家族会等で説明を行うか、書面で知らせ、理解と同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年2回開催しており、行政や外部関係者との質疑応答、家族の希望、要望の聞き取りを行っている。また、事業関係者が席を外すことで、家族が本音で話せる場も提供している。	家族会は年2回の開催で、前回は食事会も計画して、5家族14人が参加した。家族だけで話し合う場も設けている。また、日頃から職員が意見、要望を聞いており、玄関に雨除けのひさしを取り付けてほしいという要望があり、対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、職員が意見を言える関係性を構築しており、職員の要望や意見等にも速やかに対応するよう心掛けている	毎月の職員会では、利用者支援の方法を中心に意見交換をしており、ケアの工夫や改善につなげている。職員の要望について、母体法人の中芸地区介護事業部、本部介護事業部まで届く仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で職員の努力や実績、勤務状況を把握しながら評価するほか、ストレスチェックを年に一度実施して、ストレスのない職場づくりを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した職員が職場で報告することで、共有することができている。必要に応じて職員会でミニ研修を行い、事業所全体のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の複数事業所と情報交換を行いながら、サービス向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の利用者や家族との会話の中で生活歴を聞き取り、どのように暮らし、また、どのように暮らしていきたいかを十分に話し合っ、安心と信頼を得られるように心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談時や面会時に、家族の希望や要望をじっくり聞き取ることにより、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望に沿ったサービス内容を検討するとともに、状況に応じた他サービスの検討も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	表情、言葉、行動から利用者の心の動き、思いを読み取り、業務優先ではなく利用者本位のケアに重点を置き、共に暮らしていく関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、行事参加時など機会のある毎に家族の意見や要望を聞くと共に、利用者の暮らしぶりを担当職員が近況報告し、請求書郵送の際に事業所便りを同封している。面会に来られない家族には、電話で報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人等の面会には、ゆっくり寛いで頂もらえるよう、飲み物の提供などを行い、来訪しやすい雰囲気づくりに努めている。	交通の便がよく、1週間に約20人の面会者があり、親戚や友人等、馴染みの人に来てもらう機会が多い。面会に来た人には、ゆっくりしてもらおう配慮をし、再来を依頼して、利用者の馴染みの人との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人で過ごすことが好きな利用者には、個別対応ができる時間を取り、利用者同士の関わり合いを見守る支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の死亡や、長期入院で退所となっても、関係を継続しており、相談に応じる等の支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの日常会話や表情等から、その思いを把握するように努めている。意志伝達が困難な利用者の場合には、職員自身が利用者の立場に立って推測するように努めている。	利用者の生活歴や趣味、思いや意向は入所前に利用者、家族や担当ケアマネージャーから聞き取り、意向や思いを把握しているが、記録が不十分で分かりにくい。意思伝達が困難になった利用者には、声をかけたり、推測して支援をしている。	職員が把握した利用者の全体情報について、利用者の暮らし方の希望や思いも含めて記載様式を職員間で検討し、職員間の情報共有と支援に活かすことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の生活歴の聞き取りや、本人、家族と職員との会話などから把握し、職員全員で情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の思いに沿った暮らし方を見守ることで、心身の状況や、残存能力などを、総合的に把握することに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族からの意向をもとに、職員からの情報、意見等を集約して、現状に応じたケアプラン作成を行っている。利用者の状態の変化に応じてプランの変更をし、迅速に家族に報告と説明を行い、同意を得られるようにしている。	介護計画は、入所時に策定して1ヶ月後に修正し、その後は3ヶ月毎に見直している。本人の状態に変化があれば、随時変更している。介護計画の策定、見直し時には本人、家族の意向をあらかじめ確認し、反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践状況や、印象に残ったエピソードなど、利用者の1日の過ごし方が分かるような記録に努め、職員は情報共有しながら日々のケアにつなげている。利用者の経過が一目で把握できる記録方法を取り入れた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医への通院は職員対応で行っているが、他の行きつけの病院や専門病院への受診も家族対応が困難な場合には職員が対応するなど、柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町社会福祉協議会や民生委員協議会と連携を行ったり、町内図書館や利用したりして、地域の資源活用を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医や専門病院を受診できるよう配慮をしている。協力医への定期受診や、緊急受診時は職員対応を行ない、家族対応の他の医療機関受診の場合に情報を提供することや、家族の対応が困難な場合は職員が対応するなど、柔軟な対応を行なっている。	協力医をかかりつけ医とする利用者は12名で、専門医受診も含め、職員が通院介助をしている。遠方の医療機関受診は家族が介助し、必要な情報はメモや電話で家族と医師に伝えている。緊急時は家族に連絡して、職員が通院介助している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、利用者の日々の状態を観察し把握することで心身の変化を見逃さず、必要に応じて協力医の看護師に相談やアドバイスを受け、適切な治療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入退院時には、病院関係者と連携するとともに、病状説明等には家族と一緒に参加し、退院後のスムーズな事業所清潔への復帰を支援している。また、馴染みの職員が見舞いに行くことで、環境変化によるストレスの軽減にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、本人、家族に対し重度化した場合や、終末期は医療機関での対応とする基本方針を説明している。協力医と連携を行いながら、できる限りの支援を行っている。	事業所として終末期の看取りはしないことについて、入所契約時に利用者と家族に説明して、同意を得ている。できる限りの介護支援をして、終末期になれば医療機関入院となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員は、AEDの使用法の勉強を年一回実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会と指導を得ながら、併設の有料老人ホームと合同の防火、防災訓練年4回実施している。地震による津波災害や水害に関しては、隣接の避難用ゴンドラの使用法を職員全員が体験し、もしもの時に備えている。避難経路を散歩コースに取り入れ、日頃から認識できるように心がけている。	併設の有料老人ホームと合同で年4回防火、津波、水害等の訓練を実施している。手動と電動ドライバーで上昇する避難用ゴンドラ訓練に職員と利用者も一緒に参加し、体験できた。地域住民の参加は得られていない。非常用備蓄は、併設有料老人ホームの3階に合同で保管している。	地域住民20数名が建物の一部で週2回なごやかサロンを開催しており、一緒に災害訓練実施を呼びかけ、地域との相互協力を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳に留意した排泄や入浴などの支援を行い、日頃の言葉使いなど、高齢者の尊厳を守る支援を行っている。夜間のみ使用するポータブルトイレは、日中は居室に置かないなどの細かい配慮を行っている。	利用者への声かけは「さん付け」で呼ぶようにしている。利用者のプライバシーについては、外部で話さないよう徹底している。夜間に居室で使用するポータブルトイレは昼間は片づけ、居室の空気清浄にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や行動から、利用者一人ひとりの思いや要望等を汲み取る支援を行っており、利用者が選択できるような工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先や画一的なケアは排除し、個々の思いに沿った暮らしを支援している。掃除等の業務は専任の職員が行うことにより、担当職員と利用者との関わりに重点を置いた支援を実施している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外部業者に依頼して訪問によるヘアカットやパーマを行っている。買い物支援では、化粧品や好みの洋服の購入ができています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者の提供を受けているが、ご飯の炊ける匂いを大切にしたいので、朝食は職員が作っている。五目寿司がある場合には、利用者も下準備や混ぜるのを一緒にしている。食事の後片付けも一緒にできている。	朝食は各ユニットで職員が調理し、昼食と夕食は業者に委託して、盛り付けは職員と利用者と一緒にしている。月1回利用者の希望メニューも取り入れ、一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の嗜好等に配慮し、楽しみながら1日に必要な水分量や食事が摂取できるよう支援している。嚥下の状態を見ながら食事形態を変更するなど、細やかな支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状況に応じた口腔ケアを実施している。歯磨きだけに着目するのではなく、噛み合わせや義歯の不具合等にも配慮し、歯科医の訪問診療を依頼するなどの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙おむつの使用は利用者の尊厳にかかわるものであるとの共有認識のもと、利用者の状況に応じた排泄用品の使用や、日中はトイレ誘導での排泄を基本として、自立に向けた個別の排泄支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導し、布パンツの利用につなげている。トイレ誘導、ポータブルトイレの使用介助等で失敗しない自信をつけさせ、現在6割以上の利用者が布パンツとなる排泄自立促進を達成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の運動や、十分な水分摂取等により、なるべく下剤に頼らない排便に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調等に留意し、職員との会話を楽しみながら、ゆったりした入浴支援を行っている。また、利用者自身で着替服等を選択できる場面をつくっている。	入浴は本人の希望に合わせており、毎日の入浴も可能だが、平均週2回の入浴となっている。自分で衣類を決め、自分で着脱できるようゆっくり時間を取っている。入浴を拒む利用者は体調や気持ちの変化等を考慮して、時間をかけて入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンや体調に応じた休息や就寝を支援している。眠くなるまでフロアでテレビを観たり、職員と会話したりお茶を飲んだりする等、画一的な支援は行っていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の有効性や副作用についての情報共有を行いながら、職員の服薬知識を向上させており、服薬介助マニュアルに沿った支援を行うことで、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生花講師がボランティアで生花教室を開催したり、随時カラオケを開催したりしている。畑仕事の得意な利用者には作物の管理など、利用者が得意とすることや、できることを探りながら、役割を持ってもらうことにより、張りのある生活が送れるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の重度化により、遠出が困難になってきているが、できる限りの外出を行っている。また、事業所周辺の散歩の頻度も増やしている。	日常的な外出は決めず、通院等を利用して出かけ、希望に沿って買い物や図書館に行く等、散歩を意識しての外出支援をしている。建物の周囲や近くの公園も随時散歩している。昨年はリフト車を借り、車いすの利用者も含め、全員で花見やひな祭りに出かける取り組みもした。	事業所周辺は敷地も広く、環境にも恵まれている。車いすの利用者も多いので、職員の外出支援だけでなく、家族の協力やボランティアの活用も検討して、敷地内を散歩する等の外出支援を増やすことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が自分での支払いを希望される場合は、預かり金よりお金を渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って、家族や親戚との電話のやり取りをすることはある。近況報告をし、ゆっくりと話しができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天窗の効果により、明るい共有スペースとなっており、観葉植物を配置したりして落ち着ける環境となっている。また、湿度室温にも配慮している。	玄関には利用者が生けた花が飾られ、長椅子も置かれている。共用空間のフロアは広く、明るい。温度や湿度も調整されている。食堂にはテーブルと椅子、リビングのテレビ周囲にはソファを配置し、壁面は産業祭に出展した絵を掛けて、親しみのある飾りつけをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで寛げる空間を配置したりし、個々の思いに沿って過ごせる居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	設置済みのベッド以外は、馴染みの家具や思い出の品物を持参してもらえよう家族に依頼している。家具の搬入等、家族の対応が困難な場合は、職員が手伝う支援も行っている。	一階の居室は明るく、窓には障子が入り温かく清潔である。ベッドは備え付けで、自宅で使っていたタンスやテレビ、カーテンやソファ、本棚などを、思い思いに配置している。居室に匂いが籠らないよう、消臭剤を活用する工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の案内板や、居室には各々の名前を表示するなど、自立した暮らしができるよう配慮している。		

ユニット名:

めい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名: さつき

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念である「くつろぎ やすらぎ 寄り添い」に基づくケアに取り組み、実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民が講師となり、定期的に生け花教室を開催してくれたり、利用者の友人が立ち寄るなどの地域交流を行っている。また、地域行事に参加し、事業所見学も受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者への日常支援を基本に、家族等の悩みや困りごとに寄り添い、相談に乗っている。話を聞いてもらうだけでも落ち着くと言ってくれる家族がいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状やサービス提供の内容等の細かい報告を行い、意見交換をして、アドバイスを得ながらサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域連合の地域包括支援センターの相談員と連絡を取りながら、問題解決に対応している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の弊害を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。特にスピーチロックについて日ごろのケアを振り返って検討するなど、職員への理解浸透を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待報道があるたびに、職員会等で話し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を利用する利用者があるので、職員もある程度は制度を理解しており、月1回後見人に利用者の近況報告をして、信頼関係を築いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に内容や重要事項の説明を行い、理解と同意を得るようにしている。契約内容に変更が生じた場合には、事前に家族会等で説明を行うか、書面で知らせて、理解と同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年2回開催しており、行政や外部関係者との質疑応答、家族の希望、要望の聞き取りを行っている。また、事業関係者が席を外すことで、家族が本音で話せる場も提供している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、職員が意見を言える関係性を構築しており、職員の要望や意見等にも速やかに対応するよう心掛けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で職員の努力や実績、勤務状況を把握しながら評価するほか、ストレスチェックを年に一度実施して、ストレスのない職場づくりを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した職員が職場で報告することで、共有することができている。必要に応じて職員会でミニ研修を行い、事業所全体のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の複数事業所と情報交換を行いながら、サービス向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の利用者や家族との会話の中で生活歴を聞き取り、どのように暮らし、また、どのように暮らしていきたいかを十分に話し合っており、安心と信頼を得られるように心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談時や面会時に、家族の希望や要望をじっくり聞き取ることにより、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望に沿ったサービス内容を検討するとともに、状況に応じた他サービスの検討も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	表情、言葉、行動から利用者の心の動き、思いを読み取り、業務優先ではなく利用者本位のケアに重点を置き、共に暮らしていく関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や、行事参加時など機会のある毎に家族の意見や要望を聞くと共に、利用者の暮らしぶりを担当職員が近況報告し、請求書郵送の際に事業所便りを同封している。面会に来られない家族には、電話で報告している。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族、友人等の面会には、ゆっくり寛いで頂もらえるよう、飲み物の提供などを行い、来訪しやすい雰囲気づくりに努めている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一人で過ごすことが好きな利用者には、個別対応ができる時間を取り、利用者同士の関わり合いを見守る支援を行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用者の死亡や、長期入院で退所となっても、関係を継続しており、相談に応じる等の支援を行っている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの日常会話や表情等から、その思いを把握するように努めている。意志伝達が困難な利用者の場合には、職員自身が利用者の立場に立って推測するように努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時の生活歴の聞き取りや、本人、家族と職員との会話などから把握し、職員全員で情報共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の思いに沿った暮らし方を見守ることにより、心身の状況や、残存能力などを、総合的に把握することに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族からの意向をもとに、職員からの情報、意見等を集約して、現状に応じたケアプラン作成を行っている。利用者の状態の変化に応じてプランの変更をし、迅速に家族に報告と説明を行い、同意を得られるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践状況や、印象に残ったエピソードなど、利用者の1日の過ごし方が分かるような記録に努め、職員は情報共有しながら日々のケアにつなげている。利用者の経過が一目で把握できる記録方法を取り入れた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医への通院は職員対応で行っているが、他の行きつけの病院や専門病院への受診も家族対応が困難な場合には職員が対応するなど、柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町社会福祉協議会や民生委員協議会と連携を行ったり、町内図書館や利用したりして、地域の資源活用を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医や専門病院を受診できるよう配慮をしている。協力医への定期受診や、緊急受診時は職員対応を行ない、家族対応の他の医療機関受診の場合に情報を提供することや、家族の対応が困難な場合は職員が対応するなど、柔軟な対応を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、利用者の日々の状態を観察し把握することで心身の変化を見逃さず、必要に応じて協力医の看護師に相談やアドバイスを受け、適切な治療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入退院時には、病院関係者と連携するとともに、病状説明等には家族と一緒に参加し、退院後のスムーズな事業所清潔への復帰を支援している。また、馴染みの職員が見舞いに行くことで、環境変化によるストレスの軽減にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、本人、家族に対し重度化した場合や、終末期は医療機関での対応とする基本方針を説明している。協力医と連携を行いながら、できる限りの支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員は、AEDの使用法の勉強を年一回実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会と指導を得ながら、併設の有料老人ホームと合同の防火、防災訓練年4回実施している。地震による津波災害や水害に関しては、隣接の避難用ゴンドラの使用方法を職員全員が体験し、もしもの時に備えている。避難経路を散歩コースに取り入れ、日頃から認識できるように心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳に留意した排泄や入浴などの支援を行い、日頃の言葉使いなど、高齢者の尊厳を守る支援を行っている。夜間のみ使用するポータブルトイレは、日中は居室に置かないなどの細かい配慮を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や行動から、利用者一人ひとりの思いや要望等を汲み取る支援を行っており、利用者が選択できるような工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先や画一的なケアは排除し、個々の思いに沿った暮らしを支援している。掃除等の業務は専任の職員が行うことにより、担当職員と利用者との関わりに重点を置いた支援を実施している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外部業者に依頼して訪問によるヘアカットやパーマを行っている。買い物支援では、化粧品や好みの洋服の購入ができています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者の提供を受けているが、ご飯の炊ける匂いを大切にしたいので、朝食は職員が作っている。五目寿司がある場合には、利用者も下準備や混ぜるのを一緒にしている。食事の後片付けも一緒にできている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の嗜好等に配慮し、楽しみながら1日に必要な水分量や食事が摂取できるよう支援している。嚥下の状態を見ながら食事形態を変更するなど、細やかな支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状況に応じた口腔ケアを実施している。歯磨きだけに着目するのではなく、噛み合わせや義歯の不具合等にも配慮し、歯科医の訪問診療を依頼するなどの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙おむつの使用は利用者の尊厳にかかわるものであるとの共有認識のもと、利用者の状況に応じた排泄用品の使用や、日中はトイレ誘導での排泄を基本として、自立に向けた個別の排泄支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の運動や、十分な水分摂取等により、なるべく下剤に頼らない排便に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調等に留意し、職員との会話を楽しみながら、ゆったりした入浴支援を行っている。また、利用者自身で着替服等を選択できる場面をつくっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンや体調に応じた休息や就寝を支援している。眠くなるまでフロアでテレビを観たり、職員と会話したりお茶を飲んだりする等、画一的な支援は行っていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の有効性や副作用についての情報共有を行いながら、職員の服薬知識を向上させており、服薬介助マニュアルに沿った支援を行うことで、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生花講師がボランティアで生花教室を開催したり、随時カラオケを開催したりしている。畑仕事の得意な利用者には作物の管理など、利用者が得意とすることや、できることを探りながら、役割を持ってもらうことにより、張りのある生活が送れるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の重度化により、遠出が困難になってきているが、できる限りの外出を行っている。また、事業所周辺の散歩の頻度も増やしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が自分での支払いを希望される場合は、預かり金よりお金を渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って、家族や親戚との電話のやり取りをすることはある。近況報告をし、ゆっくりと話しができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天窗の効果により、明るい共有スペースとなっており、観葉植物を配置したりして落ち着ける環境となっている。また、湿度室温にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで寛げる空間を配置したりし、個々の思いに沿って過ごせる居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	設置済みのベッド以外は、馴染みの家具や思い出の品物を持参してもらえよう家族に依頼している。家具の搬入等、家族の対応が困難な場合は、職員が手伝う支援も行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の案内板や、居室には各々の名前を表示するなど、自立した暮らしができるよう配慮している。		

ユニット名:

さつき

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない